

日本救急医療財団の活動報告

平 賢二 事務局 長

2020年10月中旬から12月上旬までの財団の活動について報告します。

研修研究部門に関する報告

風間 和則 研修研究部

1. 令和2年度救急医療業務実地修練等研修事業の実施について

○救急救命士養成所専任教員講習会

令和2年10月26日（月）から10月30日（金）までの5日間、リロの会議室コンフォート水道橋において、救急救命士養成所専任教員講習会を実施しました。

受講対象者は、(1)救急救命士の免許を有する者、(2)本講習会修了後も養成所の専任教員として救急救命士の教育に従事する者及び将来従事しようとする者、であり、全国から21名の受講者が参加されました。

研修内容は、①救急救命士の活動に必要な関係法規と救急救命士の処置内容の拡大の今後、②病院前医療MC体制の現状と将来像（講義・WS）、③救急救命士指導者にもとめられる素養と知識、④救急救命士養成施設教育体制の現状と今後の課題、⑤病院前医療体制充実のための課題の検討（WS）、⑥救急救命士教育現場に必要なプレゼンテーション技法（WS）、⑦救急救命士に必要な教育技法、⑧救急救命士に必要な研究方法の理解と種々の統計解析法の理解（講義・WS）、⑨救急救命士に必要とされる教育内容とカリキュラム編成について、⑩救急救命士に必要な特定行為プロトコールを実技で指導するための基礎知識（WS）、⑪高度シミュレーターを使用した特定行為プロトコールを検討する（WS）、について講義及びワークショップ（WS）行いました。

特に、ワークショップでは、活発な意見交換と受講者相互の情報交換がなされ、大変有意義な講習会となりました。

なお、開催にあたりましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、受講者に事前の検温、マスクの着用の徹底、手洗い・手指消毒の徹底をお願いするとともに、ソーシャルディスタンスへの配慮、研修会場の換気、フェイスシールドの配布、除菌シートの配布、講師用飛沫拡散防止用アクリルパネルの設置等を行いました。

○病院前医療体制における指導医等研修（初級者）大阪会場

令和2年11月12日（木）から11月13日（金）までの2日間、大阪府大阪市の天満研修センターにおいて、病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を実施しました。

受講対象者は、3年以上の救急臨床歴があり、①これからMCを始める医師、②現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、③救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、④二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、全国から49名の受講者が参加されました。

研修の内容は、①救急医療とメディカルコントロール、②救急業務の担い手と医師の業務、③メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠、④メディカルコントロールの現状と課題（WS）、⑤オンラインで行う指示、指導・助言（講義・WS）、⑥医師が出動する医療でのMC、⑦プロトコルの読み方・使い方（講義・WS）、⑧検証とフィードバック（講義・WS）、⑨病院実習における教育（講義・WS）を行いました。

特にワークショップ（WS）では活発な意見交換がなされ、研修の最後には講義内容等の理解・復習を目的としてテストを行い大変有意義な研修会となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、講師が遠隔から初めてのオンラインによる講義を実施しました。

なお、開催にあたりましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、受講者に事前の検温、マスクの着用の徹底、手洗い・手指消毒の徹底をお願いするとともに、ソーシャルディスタンスへの配慮、研修会場の換気、フェイスシールドの配布、除菌シートの配布等を行いました。

○保健師等救急医療指導者講習会

令和2年11月26日（木）から11月27日（金）までの2日間、リロの会議室コンフォート水道橋において、保健師等救急医療指導者講習会を開催しました。

本講習会は、保健所等の行政機関又は公共機関に勤務する保健師等を対象とし、地域における救急蘇生法等（乳児・小児の応急手当等を含む）に関する普及方策等の企画・運営を行う者の養成を図ることを目的に全国から11名の受講者が参加されました。

講習会の内容は、①地域包括ケアシステムと救急医療、②災害医療における保健所の役割、③災害医療コーディネーターとの連携における保健師等の役割（WS）、④新型コロナウイルス感染症対策について（WS）、⑤事故予防（総論）、（各論）、⑥乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習、⑦心肺停止事象が公衆衛生に及ぼす影響と救命の連鎖、⑧学校保健と救急蘇生法指導、⑨母子保健と救急蘇生法指導（心停止予防・事故防止

を含む) (WS) を行い、ワークショップ (WS) においては、活発な意見交換と受講者自身による体験を交えた議論により受講者の相互間での連帯感が深められ大変有意義な講習会となりました。

また、新型コロナ感染症の感染拡大の影響により、講師が遠隔によるオンライン講義を実施しました。

なお、開催にあたりましては、新型コロナ感染症の感染予防対策として、受講者に事前の検温、マスクの着用の徹底、手洗い・手指消毒の徹底をお願いするとともに、ソーシャルディスタンスへの配慮、研修会場の換気、フェイスシールドの配布、除菌シートの配布、講師用飛沫拡散防止用アクリルパネルの設置等を行いました。

○病院前医療体制における指導医等研修（初級者）東京会場

令和2年11月26日（木）から11月27日（金）までの2日間、リロの会議室コンフォート水道橋において、病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を開催しました。

受講対象は、3年以上の救急臨床歴があり、①これからMCを始める医師、②現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、③救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、④二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、全国から41名の受講者が参加されました。

研修の内容は、①救急医療とメディカルコントロール、②救急業務の担い手と医師の業務、③メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠、④メディカルコントロールの現状と課題 (WS)、⑤オンラインで行う指示、指導・助言 (講義・WS)、⑥医師が出動する医療でのMC、⑦プロトコルの読み方・使い方 (講義・WS)、⑧検証とフィードバック (講義・WS)、⑨病院実習における教育 (講義・WS) を行いました。

特にワークショップ (WS) では活発な意見交換がなされ、研修の最後には講義内容等の理解・復習を目的としてテストを行い大変有意義な研修会となりました。

また、新型コロナ感染症の感染拡大の影響により、講師による遠隔からのオンライン講義を実施しました。

なお、開催にあたりましては、新型コロナ感染症の感染予防対策として、受講者に事前の検温、マスクの着用の徹底、手洗い・手指消毒の徹底をお願いするとともに、ソーシャルディスタンスへの配慮、研修会場の換気、フェイスシールドの配布、除菌シートの配布、講師用飛沫拡散防止用アクリルパネルの設置等を行いました。